

Q 1 1 「指導内容の重点化」とは何ですか。

ーポイント 1 1ー

- 児童生徒の発達的特質に応じた内容項目の重点化
- 各学校における重点的指導の工夫
- 社会の要請や今日的課題を踏まえた指導内容の重点化

指導内容の重点化には、次の三つの側面があります。

1 児童生徒の発達的特質に応じた内容構成の重点化

道徳の内容項目は、小学校第1学年及び第2学年が16項目、第3学年及び第4学年が18項目、第5学年及び第6学年が22項目、中学校が24項目にまとめられています。これらは、小学校6年間及び中学校3年間を視野に入れ、児童生徒の道徳的心情の発達、道徳的価値を認識できる能力の程度や社会認識の広がり、発達の段階などを考慮して、最も適時性のある内容項目を段階ごとに精選し、重点的に示したものです。

したがって、各段階の指導においては、常に全体の構成や発展性を考慮して、全体にわたって計画的に指導することが大切です。

2 各学校における重点的指導の工夫

各学校においては、児童生徒や学校の実態、学校の特色などを考慮し、既に重点化されている内容項目の中から、学校で更に重点的に指導したい内容項目を選び、多様な指導を工夫することによって、内容項目全体の指導を一層効果的に行う必要があります。

その際、学校の教育活動全体で重点化を図るものと、道徳の時間の指導の中で重点化を図るものの関連を十分図ることが大切です。

3 社会の要請や今日的課題を踏まえた指導内容の重点化

道徳教育を進めるに当たり、どのような内容を重点的に指導するかは、最終的には、各学校が児童生徒や学校の実態などを踏まえて工夫するものですが、社会的な要請や今日的課題についても考慮し、配慮する必要があります。その内容について、第1章に示しているとおりでありますが、それらの内容にあわせ、小学校では自己の生き方についての考えを深める指導を、中学校では人間としての生き方についての自覚を深める指導を充実することが大切です。

指導に当たっては、道徳教育推進教師が調整を図りながら、道徳教育と他の教育活動との関連付けを図るとともに、道徳の時間において関連的、発展的な指導や繰り返し指導を行うなどの重点化を指導計画に反映させましょう。